

# 仙台青年

SENDAI YMCA NEWS



2024.2.28



2024年2月28日は、ピンクシャツデーです。

2007年カナダから始まったピンクシャツデー。ピンクの色は、世界いじめ反対運動のシンボルです。

仙台YMCAでも取り組みを始めて9年目になりました。幼児や保護者には「みんなちがって、みんないい」んだということを伝え続けています。男女、貧富、学歴の差、素人と専門、高齢者、乳幼児、民族や国の違いなど、言葉や行動、雰囲気など差別すること、うとんじることが私たちの周りには多くあります。「みんなちがって、みんないい」ということをピンクシャツデーを通じて改めて考え、伝え、平和を祈ることにしています。昨年の仙台YMCAの様子を一部紹介いたします。

幼稚園では、縦割り活動の中で、年長児が心を込めて準備した桜のスタンプ。幹だけが描かれた画用紙に、手作りの桜スタンプを押していきます。年長児は準備、当日の製作中、片付けまで下の学年の為に進んで手伝いをしていました。真っ白だった画用紙は、あっという間に満開の桜でいっぱいになりました。しばらくクラスに飾っていると、「これはぼくので、これは〇〇ちゃんの！」と嬉しそうに話す姿や「ピンクいるきれいだね、どれもすてきだね」とお互いを認め、お花見をする姿が見られました。

保育園の5歳児クラスでは、ピンクシャツのカードに、友だちの素敵なおとこや、してもらって嬉しかったことを絵や文字で書き、掲示。お互いの良い所を再確認できる優しさあふれるピンクシャツデーとなりました。

また、ペープサートを使い「ピンクシャツデー」の話をする、子どもたちから保護者の方にも、一人ひとりの違いを認めようという思いが伝わり、「ピンクの物を着て出勤します」という保護者の方もいらっしゃいました。みんなのあたたかい気持ちがつながりました。




児童館では、寸劇「みんなちがっていいんだよ」を作り子どもたちに発表。子どもたちが「お互いの違いを認めあうこと」が伝わったのではないかと話してくれました。また、1年生のみんなとピンクシャツデーの1ヶ月前から本を題材にして自分や相手の気持ちについて考えメッセージを貼って当日をむかえました。

YMCAきぼうでは、メンバーが「自分が好きなこと」を書いたカラフルなシャツを作りました。ラジオ、電車、トランプなど、一人ひとりが違う「好き」を持っていて、それは素敵なことだと確認できた日となりました。

ホテル学校では、毎月最後の水曜日にピンクシャツデーを意識して、ピンクのものを身に着けようという声かけをし、チーフやシャツ、ネクタイなどピンクのものを身に着けて登校する学生の姿がありました。

各施設、各部に於いて、幼児から青年、保護者、職員が、平和な世界を願って進めています。

また、仙台市、名取市、富谷市、山元町各教育委員会の名義後援をいただき、全ての小中学校に配布、地域の方々にもこの運動を広めています。2024年2月28日、皆さまの地域においても、平和を願う活動、差別のない、『みんなちがって、みんないい』社会の実現の一翼となることを祈りつつ活動を進めてまいります。

(2024 ピンクシャツデー実行委員長  吉永肇子)

## Column

## 仙台青葉城ワイズメンズクラブ

### 阿部頌栄さん

「仙台青年」を手にとってくださっている皆さまは、きっとYMCAに近しくしてくださっていて、こちらを読まれていることと存じます。YMCAには、こども園、児童館、放課後デイ、専門学校、そしてさまざまな運動教室などの日々の仕事があります。それだけではなく、YMCAはチャリティーラン、ピンクシャツデー、国際・地域協力募金など、さまざまな活動を、外部の団体とも協力しながら展開している団体でもあるのです。



このYMCAの働きに協力する有志の集まりがあります。それが「ワイズメンズクラブ」です。目の前の一人ひとりの平和のために、そして社会のために、少しずつ取り組んで行こう。そんな思いをもって会員一人一人が参加してくださっています。そして皆で協力していると、それが思ってもみないような力を生んでくれるのです。

そんな活動の嬉しい一つが先日行われました。

全国のYMCAと共に行われた「ランドセル・プロジェクト」です。これは日本各地から寄贈されたランドセルを、世界の学用品を必要とする子どもたちに届けるプロジェクトです。今回はネパールに、無事にたくさんのランドセルが贈られ、子どもたちに笑顔を届けることができました。

他にも様々な活動をしており、そういった働きの一つ一つが、仙台YMCAを支えることにもつながっています。皆さまがもし、YMCAに何か「良い雰囲気」を感じておられるのだとすれば、それはこういった働きと意思の土台の上に育まれているのだということを憶えていただきたいと思うのです。

クラブは会員同士の良い交流の場でもあります。この原稿を書いているのはクラブの「クリスマス会」の日です。わたしは夜の会をとても楽しみにしながらキーボードを打っています。皆さまのワイズメンズクラブへのご参加をお待ちしております。





## トミザワイレブン/鈴木龍志さん保護者 鈴木清美さん



長男が富沢児童館にお世話になって今年で6年目になります。3年生のはじめ辺りまでは児童クラブで放課後を過ごしました。次男が生まれ、私が育休期間に入ったため、そこで児童クラブへの登録は終了となりましたが、4年生からは高学年ボランティア「トミザワイレブン」に登録して、6年生の現在も毎月イレブンの活動に参加しています。

子どもを通してみていて、とてもいいと思うことは、児童館のリーダーたちとのかわりです。親ではない大人や学校の先生ともまた違う大人と関わることは、人と関わる力の成長を大いに後押ししてくれたと思います。

そしてもう一つ、我が家にとって魅力的なのは、YMCAの特徴である野外活動や自然体験ができることです。夫婦ともに仕事が忙しくあまり余裕がないことや、特に私がインドア派のせいもあって、子どもにそのような体験をさせてあげたいと思っても、なかなか難しい部分をYMCAが運営している富沢児童館は得意としていて、おかげで子どもたちに、家庭ではさせてあげられない体験をさせてあげることができています。夏や冬のキャンプもありますが、宿泊活動が少し苦手な長男は主に毎月1回実施の『地球探検隊』に参加しています。親がいない中でリーダーや児童クラブの友だちと一緒に地下鉄に乗ったり河原で簡単な調理をしたりと、五感が刺激される素晴らしい機会になっています。後日リーダーたちから地球探検隊での我が子の様子を聞くと、周りへの気遣いやリーダーシップ、お手伝いを頑張ったことなど、普段家庭では見せないような姿をたくさん聞くことができ、「いつの間にか成長したんだな」と感動(むしろ驚き)することもあります。

1年生の時はやんちゃで館長さんに甘えていた小さな男の子だった長男も6年生になり、身長も母を超えました。これから先、どんな青年に、そして大人になっていくのか、まだまだ未知数ではありますが富沢児童館で経験したいろいろなことがきっとこの先の彼の未来を力強く応援してくれることと思います。リーダーたちには感謝の気持ちでいっぱいです。富沢児童館、とってもいいところですよ！

## 連載

加藤 総理事の

『みつかる。つながる。  
よくなっていく。』

第8回

「被災地へスタッフを派遣します」



日本のYMCAは行政（内閣府・石川県）と協力しながら金沢市の1.5次避難所である「いしかわ総合スポーツセンター」の運営支援を行っています。石川県でもセンターにおいて避難所運営のノウハウがないことから、避難所立ち上げからYMCAがアドバイザースタッフを大阪YMCAと神戸YMCAから送ってきました。こちらの避難所では1月15日現在入所者数は250名、これまでに638名が入所し、388名が2次避難所に移動しています。1.5次避難所とは、2次避難所であるホテル等に移る前に避難する一時的な場所です。現地から2次避難所への移動が始まっているので、出入りが今後多く発生します。仙台YMCAでは、1月20日（土）から31日（水）まで、健康教育事業部の堀越祥浩さんをアドバイザースタッフとして1.5次避難所に派遣しています。堀越さんを派遣するにあたっては、現場のシフト調整など、オール仙台YMCAとして協力をしなければ派遣ができないものです。堀越さんの活躍と安全、そして健康を祈ります。



中央：堀越さん

## 仙台YMCAの使命

私たち仙台YMCAは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の生き方に学びつつ、青少年の全人的成長を願い、このわざを東北の地に広げるための活動を行います。

## 共に生きる社会をめざします。

私たちは、すべての人が喜びと痛みを分かち合う、豊かな愛と希望に満ちた社会の実現に努めます。

## 喜びのある生き方をすすめます。

私たちは、すべての人が、生涯にわたる学びと交わりをとおし、共に成長できる生き方をすすめます。

## 世界平和の実現に努めます。

私たちは、歴史をふりかえり、一人ひとりの人権とすべてのいのちが尊ばれる世界の実現に努めます。

## 地球環境を大切にします。

私たちは、地球環境を守り、自然と人との共存をめざします。

## ボランティアの働きを地域社会に拡げます。

私たちは、人と人のかかわりを豊かに育み、隣人に伝えあう喜びの輪を拡げます。

## 子どもたちの生きる力を育てます。

私たちは、子どもたち一人ひとりの個性を尊重し、子どもたちが自発性に富み、自立心豊かでたくましい人間に育つよう支援します。

仙台YMCA

## 仙台青年

SENDAI YMCA NEWS



1月1日に石川能登地震により被災した皆様に心からお見舞いを申し上げます。未だ困難の中にある皆さんが一日でも早く通常の生活を取り戻すことが出来ますように心からお祈り申し上げます。

日本のYMCAは、地震発生後すぐに現地に入り、地元の行政や支援団体との協議を重ね、ニーズを把握し、近隣の富山YMCAと金沢YMCAと協働して、支援活動を開始しています。皆様には、これらの活動を支える募金のお願いをしているところです。状況の変化に対応しながら、必要とされる適切な支援を全国のYMCAが力を合わせて行ってまいります。引き続きのご支援よろしく願います。

さて、仙台YMCAは、人々の心と身体と精神のバランスの取れた成長を支える場として多くのプログラムを展開し、今年で119年目を迎えることができました。皆様のお支えと神様の導きに感謝いたします。コロナやインフルエンザの大流行より、十分に施設やプログラムの活用ができない状況はまだまだ続いておりますが、参加する皆さんの、また、それを支える保護者の皆さん、ボランティア皆さんの大切な場として、機能性と質の向上に努めてまいります。引き続きよろしく願いいたします。

昨年は大変悲しいニュースがありました。イスラエル軍の攻撃によりガザYMCAが破壊され、避難していた250人の人々に多くの死傷者が出てしまいました。以前からガザYMCAが軍により包囲されているという話は聞いていましたが、どうすることもできず、大変悲しいことになってしまいました。YMCAですら安全な場所になることができなかったことに怒りすら覚えます。まだ戦闘は続いています。今年こそ平和を取り戻すための行動と強い祈りを届け続けましょう。

仙台YMCAは、現在、2030年をゴールとした仙台YMCA Vision2030を作成中です。3つのキーワード（テーマ）を『こども』『コミュニティ』『ボランティア』に設定し、各施設・部門で計画を策定していきます。対象となる子どもたちやユースだけでなく、留学生や職員、ボランティアの物理的、精神的環境の整備にも力を入れていく計画です。YMCAのプログラムは、子どもたちに限らず、多くの人と共にあり、共に歩む存在でありたいと願っています。新しい年も身体的・精神的・社会的に満たされ、安定してよい状態（ウェルビーイング）になることを目指し活動を展開します。そして、多くの皆さんが、個人の変革、地域の変革、世界の変革に加わることができるよう発信していく所存です。

「みつかる」「つながる」「よくなっていく」活動に、皆様のご参加をお待ちしています。



総主事 加藤 雄一

## 維持会費 (12月17日～1月23日)

皆様のお支えに、心より感謝申し上げます

維持会員A

平野 邦夫 児玉 由子

※敬称略

一般会員・サポート会員を  
随時募集中ですぜひ会員として、  
仙台YMCAの活動をお支えください  
お問い合わせ: 本部事務局

TEL: 022-222-7634

FAX: 022-222-2952